

厳しい国保運営に対応するために
国保税率の見直しの検討を始めました

問 市民保健課 国保係 ☎57-8506
問 税務収納課 市民税係 ☎57-8504



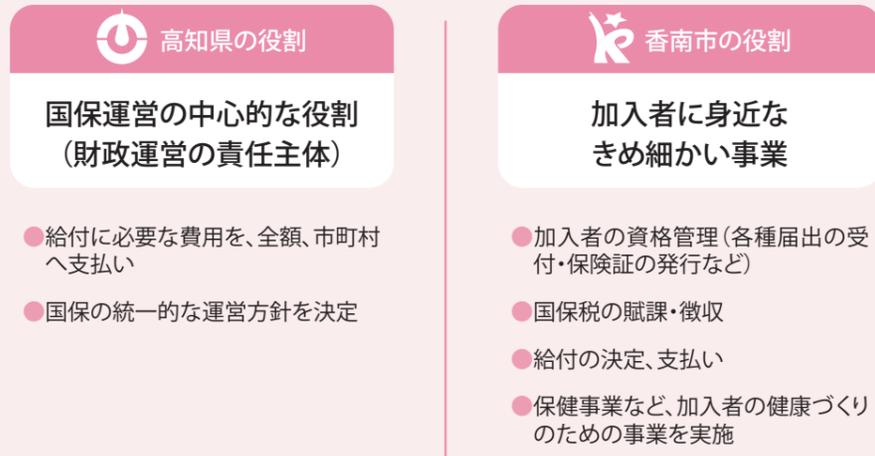
■国保の現状と
国保制度改革

国民健康保険は、国民皆保険制度の基盤となる医療保険であり、地域住民の健康と医療を担う、地域に密着した医療保険制度です。

しかし、高齢化の進展や就業構造の変化、経済の低成長等、国保制度を取り巻く環境が年々厳しさを増していく中で、今後も医療費の伸びが見込まれており、国保制度運営は大変困難な状況に直面していました。

このような状況から、国は持続的な医療保険制度を構築するため、平成30年度に半世紀ぶりの大改革を実施しました。この改革では、財政基盤の立て直しを図るため、都道府県が国保運営についての中心的な役割を担うことになりました。

国保制度改革による平成30年度からの高知県と香南市の役割分担



今までの国保制度との大きな変更点⇒国民健康保険事業費納付金の設立



■国民健康保険
事業費納付金の
大幅な引き上げ

新しい制度のもと、国保制度は順調な滑り出しが期待されていましたが、平成30年度、高知県下においては医療費の大幅な伸びが見られたことや、国から交付される交付金が予想を大きく下回ったことにより、県の国保会計は大きな赤字となっていました。

この結果を受け、県は令和元年度に必要とされる国保会計の予算の推計を大きく見直し、市町村に求める事業費納付金を大幅に引き上げることとなりました。

香南市においても、平成30年度と比較すると、1億円を超える増額となりました。

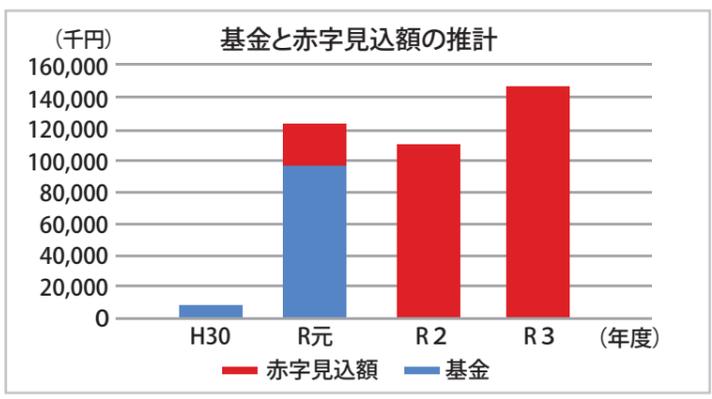
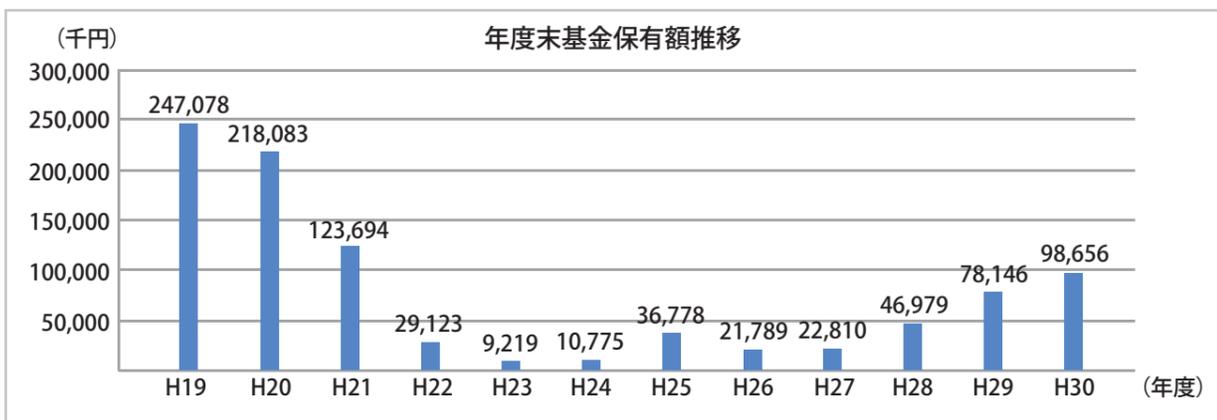
■香南市の
国保基金と赤字

市の国保が保有している基金は、医療費の増加や景気低迷の影響で国保税収の確保が難しくなり、一時は1000万円を下回りました。

その後、税率改正の見直し等を行い、現在は約9800万円の基金を保有しています。この基金は、国保会計の決算の際、歳入歳出の差引きで不足が生じた場合に取崩し、国保会計に充てることと、その年度の会計が赤字にならないように調整する役割を担っています。

しかし、令和元年度は、県に納付する事業費納付金が大幅に増額されたため、市の国保会計は現時点で、国保基金を全額充てても、約2600万円ほどの赤字になる可能性があります。

また、今後も同水準で納付する必要があるとした場合、国保基金がないため、市の独自推計では、令和2年度で赤字額が約1億円を超え、それ以降も増え続ける可能性があります。



■今後の対策について

市では、早急な検討が必要であると判断し、市長が諮問した「香南市の国民健康保険事業の運営に関する協議会」で赤字削減・解消に向けた検討を始めました。

現在、赤字見込み額の推計をもとに、市の国保被保険者数の推移や、医療費の推移、国保加入世帯の所得階層状況や国保税の軽減制度対象世帯割合などの資料を参考に検討を行っています。

赤字額にあわせて国保税を一気に引き上げることは、適当ではありませんが、赤字解消に向けた国保税率の見直しは必要で、しばらくは一般会計からの赤字補填をしながら、段階的に国保税率を引き上げる方向で協議をしています。

市民の皆さまのご理解をいただけるよう、慎重に議論を重ね、今後の状況については、広報誌やホームページでお知らせします。



香南市の国民健康保険事業の運営に関する協議会で検討中